

## 2010.11.10／環境商工委員会

**(かのう)** 一つは、要望なのですが、先般の政調会でもお話ししたとおり、今回もパブリックコメントが多いので、パブリックコメントの求め方を、今までのやり方でなく、きちんと、何を市民に、県民に求めているのかをわかりやすく出していただいた上で、コメントしやすいような形にさせていただきたいと思いますので、これは、全会、よろしくをお願いします。

あと、質問ですけれども、海外漂着物のところで、これは漂流物は対象にならないのでしょうか。

**(廃棄物対策課長)** 基本的には、漂着したものでございます。

**(かのう)** これは、対馬に行ったときもこの問題は非常に大きかったのですけれども、非常に難しいと思うのです。要するに、茨城県の土地に着いたものは処分するけれども、茨城県の前を泳いでいるというか、流れたものは無視するという方向が対馬のときにも問題になったのですけれども、それをちょっと確認したかったのですけれども、もう一度、お願いします。

**(廃棄物対策課長)** 基本的には、漂流物は直接の対象にならないのですけれども、ただ、発生抑制をするという考えはありますので、その際に、本県の海岸、だから、目の前を通過していくものははっきりできないのですけれども、本県の海岸に漂着してこないような対策はあり得るとは思います。流れているものにつきまして。

**(かのう)** 以上です。

**(かのう)** 部長の答弁をいただいた、さっぱりしたところで、申しわけございませんが、関連ということで少しいたします。

小田木委員もお話ししましたがけれども、今回、一般質問で、茨城県のイメージアップということで、思いは非常に強いのですけれども、今のいなだ石のこともそうなのですが、結城紬ウイークということを先ほどお話が出ました。きょうの茨城新聞にも、結城紬でコート、帽子というのが出ていましたけれども、知事の今回の答弁で、あなたたちもPRしろよという言い方だったのでしょうけれども、我々も一生懸命PRしています。私も結城紬でブレザーとジャケットとシャツもつくりましたし、高かったのですけれども、やっています。だけれども、我々議員の立場で、幾ら地元のものを持っていったり配ったり何かしても、結局、公に出ないわけです。マスコミも取り上げないし。そういう意味で、知事のトップセールスというのはそこを言いたかったわけなのです。知事は、やっている、やっていると言うけれども、どれだけ反響があるのかという部分があるのです。

今回、いなだ石の話がありました。私はこれもすごくおもしろいと思うのです。これは、ただ、我々は持って歩くわけにいかないものですから、石です。私は、この結城紬で、コート、帽子とか出ていますけれども、いばらき自民党の田山政調会長もいらっしゃいますけれども、例えば、県議会のときは、みんなで結城紬を着て来るとか、例えば、商工労働部の皆さんはぜひ結城紬のネクタイをすとか、茨城県がみんなで

何か茨城県のものをやっているのだというような、パフォーマンスかもしれないけれども、そういった姿勢をマスコミを通じて全国に発信すれば、茨城というのはすごいなど。きょうだって、湯飲みでも、これも笠間焼だったらすごいですよ。例えば、この看板だって、中にありましたけれども、いなだ石、よく農林水産省が木の名札でしたか、やっていました。そういうような形でも、茨城県、みんながそういう思いで茨城県をPRしているんだよという部分の演出を——演出というか、パフォーマンスと言われようが、そのくらいやるべきだと思いますし、私は、今回、結城紬でコートや帽子がありますから、ぜひ、奥順さんでもいいですから、結城紬のフェスティバル、担当者でもいいのですけれども、我々議員たちが身につけられるのを何か開発してくれよとかというような形の運動をしていただければ、我々も常に結城紬のネクタイをして県外視察に行くなり、プレゼントを持っていくなりできるわけです。そういった動きをぜひやっていただきたいと思うし、嫌みではありませんが、三ツ栗もさんざんPRした割にはどこに行ってもありませんし、だから、一過性で終わってしまって、それで何もやってないみたいな、やりましたみたいな、過去形、結果論だけではなくて、攻めなくてはいけないわけですから、攻めるためには、常に我々がいつも身につけている身近にあるもので、茨城、茨城とやっていかないといけないのではないかなと思っております。

何かコメントいただければ。

**(産業技術課長)** ありがたい御指摘、御指導ありがとうございます。

早速、商品、お土産に持っていけそうなものなどにつきまして、業界と御相談して検討させていただければというふうに思います。本当に、熱い、ありがたいお言葉をいただきまして申しわけありません。今後も頑張りますので、御指導のほどよろしくお願いします。

今度のいなだストーンフェスティバル、大変、業界も、それから、参加していただくデザイナーの皆さん方も本気でやっていただいております。デザイナーさんは、現地に赴きましてみずから作品をつくる、あるいは指導するということがあります。新たな取り組みによって、新たなつき合いができ、新たな商品ができればというふうに考えておりますので、どうぞ今後も御指導いただきますようお願い申し上げます。